『自分』を先制する

宗教法人長國寺 代表役員(住職)

小島 現由

Genyu Kojima

座長　船戸 崇史

『死』とは必ずやってくるものであるがゆえに、『死の恐怖』を先制する方法とは、疾病のそれとは根本的に異なるアプローチになると考えるべきであろう。なぜならば、がんの初発・再発・進行を先制するモチベーションはそもそも『死の恐怖』によって活性化されるからである。また、医療が進歩し選択肢が多様化されてきたのも『死の恐怖』のおかげである。しかしながら、皮肉にも医療の進歩と選択肢の多様化によって自らの最期を諦め難くなってきているという現実も見過ごしてはならない。選択肢が多様化することによって、「もっとこうしていれば違った『今』があったのでは」と、患者の終末期の心情のみならず遺族のグリーフケアにまで影を落としている。

『死』を前にして『死の恐怖』を先制することは、私たちが人生をかけて行動の根拠にしてきたものを最終的に否定し受容しなければならないという、いわば自らの人生の自己否定でもある。この大きな矛盾を如何に解消していくべきか。
その矛盾の所在地は、言葉にヒントがある。「『死の恐怖』を先制する」という言葉からわかることは、『死の恐怖』が客体となっているということである。客体の方を解消することに固執する限り、恐怖は増長される。そうではなく、それを感じている主体、つまり『自分』の方を薄めていく、解消していくことが仏教のアプローチである。つまり、本会の言葉を借りれば「『死の恐怖』を先制しようとしている『自分』を先制する」ことである。

今回の講演では、この点について自らの来し方と修行経験を紹介しながら考察を深めていきたい。

略歴

1984年　岐阜県恵那市生まれ
2008年　立命館大学国際関係学部卒
2008年　株式会社メタルワン入社 鋼管輸出営業に従事
2012年　Metal One Singapore Pte.Ltd 勤務
2014年　大本山永平寺本山僧堂にて修行
2015年　瑞應寺専門僧堂にて修行
2017年　長國寺副住職就任
2017年　大本山永平寺国際部講師就任
2020年　長國寺住職就任
2021年　社会福祉法人恵雄会理事

【メモ欄】